

## 数値標高モデルを用いた日本列島の地形解析

## Geomorphological analysis on Japan using digital elevation model data

# 栗原 友和 [1]

# Tomokazu Kurihara[1]

[1] 放送大学

[1] The University of The Air

本研究は、国土地理院より刊行されている "数値地図 50m メッシュ(標高)" を用いて日本列島のいくつかの地域において地形解析を行ったものである。

数値解析により傾斜、ラプラシアンを計算し、同一の傾斜、ラプラシアンを標高データと組み合わせ、1) 標高-面積、2) 正規化された標高-面積、3) 傾斜-面積、4) 正規化された傾斜-面積、5) ラプラシアン-面積、6) 標高-平均傾斜、7) 標高-平均ラプラシアンの7種類のグラフのグラフを作成した。

作成されたこれらのグラフを解釈した結果、以下のようなことが見られた。

- (1) 正規化された標高-面積のグラフにおいて、紀伊半島と四国の傾向が類似していた。
- (2) 正規化された標高-面積のグラフにおいて、多くの部分で佐渡島と房総半島の傾向が類似していた。
- (3) 正規化された標高-面積のグラフにおいて、赤城山と榛名山での傾向が類似していた。
- (4) 正規化された標高-面積のグラフにおいて、似た傾向の火山がいくつかに分類できた。